

令和元年度

第2回岡山市男女共同参画専門委員会要旨

- 1 日 時 令和元年11月29日（金）午後3時～午後6時
- 2 場 所 ほっとプラザ大供5階軽スポーツ兼会議室
- 3 出席委員 中塚委員長、貝原副委員長、小松委員、角田委員、高田委員、原田委員、日笠委員、藤田委員、光岡委員
- 4 出席職員 中西市民協働局市民協働部長
（女性が輝くまちづくり推進課）岩井課長、藤原館長、河本課長補佐、奥野参事監
高村主査、多田副主査
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事
 - （1）岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用審査について（報告）
 - （2）岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第3項運用基準適用について（報告）
 - （3）「第4次さんかくプラン」年次報告書（令和元年度）について
 - （4）その他
- 7 配付資料
 - 資料 1 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用に係る審査票【岡山市防災会議】
 - 資料 2 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用に係る審査票【岡山市災害弔慰金等支給審査会】
 - 資料 3 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用に係る審査票（第19条第3項運用基準適用）【介護認定審査会】
 - 資料 4-1 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用に係る審査票（第19条第3項運用基準適用）【岡山市防災会議】
 - 4-2 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用に係る審査票（第19条第3項運用基準適用）【岡山市防災会議】
 - 資料 5 「第4次さんかくプラン」年次報告書（令和元年度）（案）
 - ※ 当日配付資料
 - ・ 令和元年度市民アンケート集計（参考資料）
 - ・ 【第4次さんかくプラン令和元年度現状値の概略】案一式
 - ・ 講演会「真の働き方改革とは～人は仕事で磨かれる～」案内チラシ
 - ・ 「岡山市女性活躍シンポジウム」（令和元年11月8日開催）山陽新聞掲載記事コピー
- 8 会議の状況
 - 議題 1 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の適用審査について（報告）
 - 議題 2 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第3項運用基準適用について（報告）
 - 資料1、資料2、資料3、資料4-1・4-2により、「岡山市防災会議」、「岡山市災害弔慰金等支給審査会」、「岡山市介護認定審査会」について事務局から説明。正副委員長に承認いただいたことを

報告。

○ 主な意見

- ・「岡山市防災会議」、「岡山市介護認定審査会」については、女性が推薦しやすい団体に働きかけると書いているが、課の方で現場の状況の確認をお願いしたい。
- ・「岡山市災害弔慰金等支給審査会」については、他市の状況、他県の審査委員の人数、今までの開催状況等、気になる点はあるが、災害時には、特に女性が弱者になることが多いので、公平性が担保されるようにしてほしい。

議題 3 「第4次さんかくプラン」年次報告書（令和元年度）について

当日配付資料【第4次さんかくプラン令和元年度現状値の概略】案、資料5「第4次さんかくプラン」年次報告書（令和元年度）（案）により事務局から説明。

<重点目標1 個人としての尊厳の尊重及び性別に基づいて起こる人権侵害禁止>

○ 主な意見

- *【目標①】小中学校において男女平等の内容を含んだ授業を実施したクラスの割合について
 - ・かなりの年数100%が続いていると思う。この項目については、『男女平等教育指導の手引き』を配付して以来、学校は必ず実施している。もう定着したとみなされるのであれば、学校教育の中で、できていない視点の目標を新たに設置するという事は考えられないのか。
→次期プランで検討する。
- *【目標②】保育所・幼稚園・認定こども園において男女平等の視点から保育・教育や保護者への啓発に取り組んだ園の割合について
 - ・100%のとらえ方もあると思う。どのようにやっているのかこれではわからない。
- *【目標③】「さんかくカレッジ」講座内容の情報発信回数について
 - ・カレッジの受講者からは、成果として作成したパネルをもっと市も積極的に活用してほしい、という意見が出ていたが、まだ、“他の情報発信手法を検討していく”段階なのか。
 - ・受け身の講座受講ではなく、受講者が学んだことを主体的、能動的にパネルという形で発信しているのは、全国的なフォーラムで発表した時にも注目され好評だった。学んだことを視覚に訴えるパネルとして発信し、公民館に展示を提案することで、公民館自らも企画として扱ってくれる。市民に対しても説得力があり、今までになかったよい手法だと思う。
 - ・公民館への働きかけは、館長に対してだけではなく、パネルの紹介や一覧、内容が分かる写真、パンフレットなどで、実際に講座等の企画運営に関わる職員に知らせるなど、工夫をする必要があるのではないか。
 - ・市役所でパネルを展示すると市議会議員の目にもとまることもあり、政策に反映してもらえるのでは、との期待も持てる。
 - ・“パネルの展示協力の要請”、“他の情報発信方法の検討”の記述だけでなく、具体的にパネルの利用についての記述を追加してほしい。
- *次期プランの検討に向けて
 - ・数値目標の項目は、5年間は変えられない。以前にも同じような議論があったかと思うが策定時には変わらなかった。
→次期プランの策定にあたって、来年度は市民への意識調査を行うが、次期プランの柱立てを見通して行う必要があると考えている。
 - ・最初のプランでは、男女混合名簿の実施率についての項目があったが、早く達成でき、今の項目に変わった。1次から4次までのプランの数値目標などの評価項目の変遷を調べてみたら大きく変わったところが見えてくるのではないか。学校教育の中でここがくぼんでいるという部分で目標ができれば、学校現場にとって励みになるのではないか。
 - ・全ての事業内容を見ると、内容が抽象的なものもあり、評価項目と合わないところもあると感じる。
 - ・特に目標①②については、次期プランに検討を要すると議論したことを実際に生かしてほし

い。

* 評価の数値等の表現について

- ・ ○ポイント、○%などの細かい表現と、約○割など大まかな表現の違いはどう調整しているのか。実際の数値をそのまま表記の方が間違いがなくていいのではないか。
→基本的には数値をそのまま表記する方向で訂正する。

* 全国的な数値との比較について

- ・ 【指標 D】事業所への職場における性別にかかわるハラスメントへの対応度（目標⑩ 市職員の女性管理職の割合も含めて）などは、全国的な数値と比較してみるが必要で、そこから岡山市において推進されていない要因や課題を考えるような視点を評価に加えてほしい。
- ・ 特によかったと評価している項目については、全国的にみてどうだったのか確認し、“上昇傾向にあるが全国的に見ると～”などの表現を加えてほしい。

<重点目標2 配偶者等からの暴力防止及び被害者支援の推進（DV対策基本計画）>

○ 主な意見

* 【指標 E】公的相談機関の周知度について

- ・ 市民が市役所の窓口に来た時にいろいろな相談機関があることを知らせることによって、市民が市役所から聞いたという安心感を持てるのではないか。
→庁内のDVネットワーク会議等で改めて周知・依頼し、職員にも知らせていく機会を活用していきたい。
- ・ “引き続き、さまざまな機会をとらえ”の“引き続き”を削除し、その部分に“庁舎内の各課の協力を得て”など、具体的な表現にしてはどうか。

* 【指標 F】DV・デートDVに対する認知度について

- ・ “重大な人権侵害であると認識している人は約9割で10割に達していない”の表現では何を言いたいのかわかりづらいので、全ての人に浸透を図りたい、という考えであれば、“9割にとどまっている”などの表現にしてはどうか。

<重点目標3 性と生殖の健康と権利の確保及び生涯を通じた健康支援>

○ 主な意見

* 【指標 G】中学生の性に関する相談の充実度について

- ・ 子どもたちも変わってきて、今は電話での相談よりSNSの方が相談しやすく、相談機関も継続的に見守ったりしてきている。“相談できる大人が身近にいるか”との設問だが、“相談窓口の周知を図る”ということでSNSなども含めてとらえるのか。
→現在の質問内容では、詳細がわからない。
- ・ 最初のプランでは、担任・養護の先生など、校内に話しやすい先生がいるか、という人的な支援の想定だったが、SNSを入れるとこんなに低いことはないと思う。設問の内容が今の時代に合っているのかも検討しなければいけないかもしれない。
- ・ SNS等によって相談しやすくなるようなこともあるので、できるかどうかわからないが、“相談方法の検討”などの表現を加えてはどうか。

* 【指標 H】健康診査の受診率について

- ・ 女性の受診率が低い理由は、女性の方がそれぞれの診療科に分かれて行かないといけないからではないか。料金や時間の問題、性別に配慮して安心して受診できる病院の環境（トランスジェンダーの人への配慮は必要）など、さまざま考えられる。健康診断の案内の時に、女性が安心して気軽に受診できるよう工夫されていることなどを情報提供していくとよいのではないか。

<重点目標4 固定的な性別役割分担の解消>

○ 主な意見

* 【指標 J】固定的な性別役割分担意識の解消度について

- ・男性側に働きかける事業について具体的には何を想定しているのか。
→公民館等での男性のための料理、育児に関する講座や、男女は問わずだが、高校生の育児体験、大学生に向けたワーク・ライフ・バランスに関する出前講座など、意識啓発や働きかけをしている。
- *【指標 K】男性の家事、子育ての分担割合について
 - ・P.87に市の男性の育児休業取得率は4.8%と出ているが、国のデータで政令市は7.2%なので、男性の育児休業制度をしっかりと推進していくことも大切ではないか。
 - 市が積極的に実施することで一般市民や企業への啓発につながっていくことを書けばいいのではないか。
 - 検討する。

<重点目標5 国際的な取組についての理解及び協調、連携>

○ 主な意見

- *【目標 ⑧】市の実施する世界の動きや国際的な取組についての講座・研修の受講者数について
 - ・受講者数が年々増えてきているので、毎年300人以上という目標値は低すぎるのではないか。
- *【指標M】「ジェンダー」という言葉の認知度について
 - ・初めて女性が40%を超えた、といった表現ではどうか。ジェンダーという言葉はいろいろなメディアでも取り上げられてかなり浸透してきているように思える。女性と男性とを分けて評価してはどうか。
 - 女性と男性と分けて評価する。

<重点目標6 市と市民等とのパートナーシップによる協働>

○ 主な意見

- *【目標 ⑨】「さんかくウイーク」への参加者数について
 - ・年々下がってきているので、評価のところをテコ入れしないといけないと思う。
 - ・ウイークの実行委員会に入っていない大学にも、SDGsの視点で関心をもって活動している大学生がいるのではないか。大学、担当課と連携して取り組んではどうか。
- *【目標 ⑩】「さんかくウイーク」への「さんかく岡山」登録団体の参加率について
 - ・強制はできないまでも、ウイークへの参加率が低いので、他団体との交流や情報交換ができるように交流会（1年に1度開催）を工夫し、“ネットワークを充実する”、“推進するように検討する”などの表現を追加してはどうか。
 - ・登録団体の強みというより登録するメリットがほしい。登録するメリットの内容も検討が必要ではないか。
 - ・登録団体の申請の更新は毎年しているが、活動を活性化するためには実際の団体の動きを確認、把握したうえで働きかけをする必要があるのではないか。

<重点目標7 仕事と生活の調和の推進>

○ 主な意見

- *【指標 S】仕事と生活とのバランスの満足度について
 - ・男性はまだ低い上昇傾向にあるが、女性は60%止まりで変わっていないことが問題だと思う。女性への働きかけが奏功していないのではないか。女性はこれでいいと読めるがこの内容でよいか。
 - ・女性にとって、仕事と生活のバランスはどれくらいがいいと思っているのか。女性だから仕事はこれくらいで生活を主体にしようと思っている人が多いのなら、できているのかもしれないが、もっと仕事をしたい、という人が増えてくるとどうなるのか。バランスが取れていると感じているのはその人の主観なので難しい。指標としてこの設問がいいのかどうか検討が必要か。
 - 次期プラン改定時には再検討する。

<重点目標8 働く場における女性の活躍推進>

○ 主な意見

*【指標 T】女性管理職を増やす取組を行っている事業者の割合について

- ・“管理的地位への女性の活躍”の表現が聞き慣れず違和感がある。“管理者的地位”とか、“管理職的地位での女性の活躍”とするか。管理的地位はよく使われる表現なのか、管理職とは違うのか、“意思決定に参画する”といった表現もあるので検討してほしい。
- ・もう少し具体的にやることを記入する方がいいのではないか。

<重点目標9 政策・方針の決定過程への男女共同参画の促進>

○ 主な意見

*【目標 ⑩】市の審議会委員の割合について

- ・審議会全体を合わせると40%以上だが、審議会ごとに見て40%を超えていない数（69ある審議会等の内2つ）を追加してほしい。

*【目標 ⑪】市職員の女性管理職割合について

- ・岡山市だけではなく、政令指定都市の中で比較した結果等からの評価を追加してほしい。

*【指標 V】PTA会長の女性の割合について

- ・0.8ポイント増加していると書くのか。本当は横ばいだと思うが。

<【第4次さんかくプラン令和元年度現状値の概略】案について>

○ 主な意見

- ・以前のプランでは数字の上下だけを見て判断し矢印で表していたが、統計学的には横ばいのものであるのでおかしい、ということで検定をやることになった。統計学的に言わないと、上がった下がったとは言えない。
- ・昨年、“横ばい”という表現とグラフで見える上昇下降と合わず、グラフを見た人がおかしいと思うのでは、という議論になった。
→根本的には標本数の話になる。次期プランでは、項目数、施策との因果関係などを精査しないといけない。既存の色々な統計で弱い部分等をみて施策に役立てるという意味でいうと、そうとう洗い直しをしなければいけないと思っている。
- ・5ポイント以上（網掛け）というのも恣意的になるのではないかと。5%からと90%からとの5ポイント上昇は違うので、やればやるほどおかしくなる。これは統計だと言った方がいい。専門家の意見を聞いた方がいいと言っていたと思うが。
- ・統計学的には、母数の問題もある。単純に数字の上昇、下降で考えてはいけない。グラフの目盛のとり方にもよる。
→紙面で見た時と計算上の誤差と感覚的に感じるものとの差が議論になった。D案のように、数字として見てもらうのもいいかと思った。
- ・5年並んだときに、数字をよく見たり、そういうことをやっている人はわかると思うが、見て判断できるかどうか、感覚として疑問はある。
- ・視覚的には矢印はわかりやすいが、中には誤解を与えることも考えられるので、D案のように数値を事実のままあげるのがいいのではないかと。5ポイント以上はやめた方がいい。
- ・男女で割合が違うものも一括して書いてあるので、D案を大きくすれば男女を分けて示せるのではないかと。
- ・他の自治体でもやっているのではないかとと思うが、参考にしてはどうか。
- ・一覧の数字を見た時に本文の推移やコメント、内容を見る。統計学とかよくわからないので、この数字の方が一般市民としてはよくわかると思う。
- ・この一覧表の意味合いが変わってきて、中のまとめのようなものになり、上昇・下降の評価は入らないものになる。
→施策に役立てるという考えでいくとそれでいいかと思う。
- ・D案を修正して示してもらい、次回もう一度検討する。

議題 4 その他

○ 次回開催予定

今回は、2月に開催予定。後日、日程調整を行う。